

進化と継承

福井県議会議員

ささ はら のぶ ゆき

笹原修之 NEWS

県政に届けます

みなさまの声を

あわら市の皆様には、日頃より福井県政の発展に向けた県議会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。令和8年7月15日、与党の北陸新幹線敦賀・新大阪間整備委員会において「小浜・京都(桂川)ルート」が正式に決定され、これまで県議会や自治体、経済界等が一体となって取り組んできた活動に一定の成果が出たことを大変喜ばしく思います。長年にわたりルート選定にご尽力された国会議員の先生方や関係者の皆様方にも深く感謝申し上げます。

北陸新幹線は、わが国の成長と立地地域の振興に資する大変重要なインフラであり、昭和48年度に政府が小浜市附近を経由する整備計画を定め、平成29年3月に小浜・京都ルートで決定されましたが、本年与党の枠組みが変わる中、再度8ルートからの再検証が行われ、慎重な議論が重ねられた結果、今回のルート決定に至りました。令和9年度の認可・着工に向けて、福井県は一丸となって全力で取り組んでまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



北陸新幹線の ルート決定による 今後の動き

与党による小浜・京都(桂川)ルートが正式に確定されましたので、ここからは着工5条件(①安定的な財源見通しの確保、②収支採算性、③投資効果、④営業主体であるJRの同意、⑤沿線自治体の同意)の充足を経て最終決定されていきます。ルート決定後は行政手続きに入り、政府は下記の諸課題解決に向けて具体的な対応を進め、一日も早い全線開業を目指します。

01 地元関係者との合意形成

小浜・京都ルートの南北案と桂川案の比較検討を経て、京都市の懸念を考慮し桂川案に決まりました。ここからは地元自治体や事業者の理解と協力を得るため、国は環境調査や地元説明会を開催し、合意形成を図っていきます。

02 事業のスケジュールと工事期間

着工から完成までに約26年要すると想定されており、最も時間がかかる新大阪駅の工事は2050年代を目標に早期開業を目指します。工事期間短縮や交通渋滞回避策については、今後の調整と対応が必要となってきます。

03 財政負担と資金調達の見直し

敦賀・新大阪間の事業費約5.5兆円に対し、JRの利益圧迫も考慮しつつ、2027年秋に期限を迎える高崎・長野間のJR貸付料を30年延長することを調整しています。また、地方負担の軽減策として国2：地元1の負担割合の見直しや、国際観光旅客税の活用、地方財政措置の拡充等も検討していきます。

04 政府・自治体の今後の対応

京都における懸念5項目(①地方の財政負担、②地下水への影響、③建設発生土の処分、④工事車両による交通渋滞、⑤文化・歴史的建造物等への影響)が課題とされていますが、国は地元自治体と連携し丁寧な説明と意見聴取を行い、住民の納得と地域の発展を両立させる努力を続けていきます。

05 主要駅と地域の発展可能性

京都駅から西5kmに位置する桂川駅は、京都の新たな玄関口としての役割を担い、地域再開発や交通アクセス改善の起爆剤となり、関西空港や四国方面と連携する関西のハブ拠点としての役割も期待されています。



1 「あわら市沖洋上風力発電」による地域振興について

Q1

「再エネの主力電源化に向けた切り札」と言われる洋上風力発電の実現に向け、福井県議会再エネ議連では、長崎県五島市の浮体式洋上風車や、福岡県北九州市の響灘洋上ウィンドファームを視察し、地元の首長からも要望を伺っていると思いますが、知事はどのように受け止め、今後どのように対応していくのか、知事の所見を伺います。

A 知事

先月、地元のあわら市長、坂井市長と直接意見交換をさせていただきました。両市長からは、あわら市沖洋上風力発電の早期実現を望む強い思いを伺いました。本事業は地域経済への波及効果に加えて、環境教育や観光分野での新たな価値の創出も期待されており、地元の期待の大きさを改めて実感したところであります。引き続き、地元市と十分に意思疎通を図りながら、地域の皆様の期待に応えられるよう、事業の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

Q2

世界最大の風車メーカー「VESTAS」は、2039年までに国内製造拠点的設立およびサプライチェーンの構築に動き出すと報じられ、全国的に風力産業の活性化が期待される中、県は代表質問で「国に対して利害関係者との調整に係る主体的関与を求め、有望区域への選定を目指す」と答弁されましたが、今後どのように国と話を進めていくのか、県の所見を伺います。

A エネルギー環境部長

あわら市沖が有望区域に選定されるためには、海域利用に係る課題の整理が重要ですが、各省庁で所管や立場が異なるため、県が個別に協議を進めてもこれ以上の課題解決は容易ではないと考え、エネ庁が主体となって課題解決を図るよう求めています。

エネ庁からは、地元の声を直接聞いて地域の状況を把握したいと前向きな意向も示されており、必要な調整や課題解決が着実に進むよう国と協議を進めてまいります。

Q3

再エネ議連の研修会にて現段階の課題説明が行われ、特に東尋坊気象レーダーが能登半島地域や富山湾方面の雨雲を正確に観測できないおそれがあり、想定事業海域の約半分のエリアで影響が出る可能性があるとして示されています。洋上風力発電と気象レーダーが共存するために、今後どのように進めていくのか、県の所見を伺います。

A エネルギー環境部長

気象レーダーへの影響を回避するため、レーダーの高さ変更や移設、他のレーダーによる補完といった方策が検討されたが、いずれも容易ではなく、国からは気象レーダーから距離を置く形を提案されています。事業者からは事業採算性の確保が難しくなると聞いています。洋上風力発電は制度上、国が主体となって進めることとされており、課題の解決に向けて国が主体的な役割を果たすよう求め、引き続き粘り強く協議を進めてまいります。



まとめ

産業・観光・環境教育など、多面的効果のある洋上風力発電と共に地域の未来を切り拓き、石田知事が目指す「世界があこがれる福井」が実現されることを期待します！



▲ 福井県議会再生可能エネルギー促進議員連盟による洋上風力発電の研修会の様子



福岡県北九州市にある響灘洋上ウィンドファームの視察▶

2 「ふるさと住民登録制度」による関係人口政策について

Q1

人口減少対策は本県の最大の課題と考えますが、都市部に住民票を置いたまま、自分が応援したい地方自治体に登録し、実際に住んでいない人を「ふるさと住民」として認め、関係人口を「見える化」する「ふるさと住民登録制度」をどのように受け止め、今後どのように活かしていくのか、武部副知事の所見を伺います。

A 武部副知事

地域の担い手不足やコミュニティの維持にしっかり対応していくためには、県内各地域と継続的に関わる関係人口を拡大していくことが重要であると考えます。制度の活用に向けて新たに配置した**関係人口拡大ディレクター**を中心に、県内4市町と協働で地域活動の担い手受入れのモデル事業を実施し、全県に横展開し、**関係人口が広く県内各地に効果的に拡大するよう、しっかり努力していきたい**と考えております。

Q2

「ふるさと納税」や「観光誘客」のような従来の情報発信や**各市町のファンクラブ制度**と、地方と都市を繋げ移住・定住に結び付ける「ふるさと住民登録制度」との**違いや関係性**について、県はどのように捉えているのか。また6月補正予算に上がっている487.5万円はどのような形で活用されていくのか、県の所見を伺います。

A 未来創造部長

各市町が運営するファンクラブは、定期的に情報を届ける重要な役割を果たし、ふるさと住民登録制度は、担い手活動を通じて地域との関係を深めていく仕組みであります。今後は既存の**ファンクラブ制度の登録者をふるさと住民登録制度に誘導していきたい**と考えております。6月補正予算は、市町関係者向けの研修会や、市町のモデル事業の費用であり、受入れ体制の強化を図っていききたいと考えております。



まとめ

県と市町が協力して、地域の魅力をさらに磨き上げ、「ふるさと住民登録制度」が関係人口を増やすプラットフォームとなることを期待します！



総務教育 常任委員会 の様子

本年度は、総務部・未来創造部・教育庁等を所管する総務教育常任委員長を拝命いたしました。効率よく闊達な議論が交わされるような委員会運営に邁進してまいります。



教育委員会関係

小学校の統廃合について

Q 質問 人口減少により小学校の規模は小さくなっているが、子どもの健全育成を考えると、単学級ではない学校がよいと思う。小中学校の統廃合は市町の判断に委ねられているが、県から働きかける必要があるのではないか。

A 答弁 県が小中学校の統廃合について判断を出すと、その市町の住民自治の推進を困難にしまいます。小規模に対応するための対策は、各市町が十分に認識していると思われるため、相談があった場合にしっかり答えていくスタンスだと考えます。

意見 文部科学省が、複数の自治体をまたいだ学校運営も見据え、学校統廃合の手引きを改訂するという報道があった。考え方が大きく変わるので、市町の意見を聞き、しっかりと検討した上で進めていただきたい。

その他

- 通信制高校の現状について
- 学校安全(避難訓練)について
- 県立学校の留学生の受入れ方針について 等

総務部関係

高等教育修学支援の拡充について

Q 質問 高等教育修学支援をするならば、地元で就職してもらうための取組みを強化するのは当然だと思うが、考えを伺う。

A 答弁 高等教育修学支援の目的として、県内大学への進学もあります。授業料免除に合わせて就職応援サイトに登録してもらい就職活動につなげ、県内で就職していただくことも重要な要件と考えています。また、工学部系大学が行っている学生の県内就職率を高めるための取組みへの支援を継続していくことで、工学部系卒業生の県内就職率を改善したいと考えます。



その他

- 行財政改革アクションプラン2024の実績について
- 集落活性化支援事業について
- 公共事業の物価スライドへの対応について 等

未来創造部関係

移住・定住施策について

Q 質問 長期ビジョンでは、2029年度の新ふくい人(県市町の支援を受けてUターンした方)の目標を1,600人としている。目標達成のための取組みについて伺う。

A 答弁 新ふくい人は20~30代が半数を占めていることから、若者世代、その中でも単身層へのアプローチを検討していきます。

意見 伸びている部分をテコ入れしても、減っている部分があれば全体として増えていかない。目標達成のために、熱意をもって取り組んでほしい。

その他

- 北陸新幹線敦賀以西の整備について
- 福井城坤櫓の復元整備について
- 若狭湾サイクリングルートについて 等

普段どういふ活動をしているの？

ささはらのぶゆき

笹原修之の活動報告

【2026.4▶6】抜粋

日々の活動は
Facebook を
ご覧ください!!



あわら市スポーツ協会総会



福井Uターンセンター視察



嶺北消防組合あわら消防団
火災防ぎょ訓練



吉崎蓮如上人御影道中



福岡市博物館視察



北潟湖うなぎ放流事業



北陸新幹線敦賀・新大阪間
認可・着工早期実現決起大会



第23回 あわら市トリムマラソン



あわら市日本中国友好協会総会



中部縦貫・北陸関東広域道路
建設促進同盟会定期総会



日本酒女将プロジェクト
田植え行事



ゼビオアリーナ仙台視察



第71回 細呂木地区体育祭



拉致被害者国民大集会



第39回 あわら北潟湖畔
花菖蒲まつり開会式



第16回 みどりと花の県民運動大会



北陸新幹線小浜・京都ルート
建設促進同盟会総会



ニュースポーツ・チャレンジデー
(卓球バレー)



初夏のフルーツパーラー



あわら市明るい社会づくり
推進協議会定期総会

県政についてのご意見・ご要望をお聞かせください!!

明るい未来を目指して。福井新・時代

ささはらのぶゆき

福井県議会議員 笹原修之

【事務所】〒919-0632 福井県あわら市春宮三丁目19-15 (ハロープリント内)

TEL 0776-73-4513 / FAX 0776-73-1036 E-mail:sasahara@helloprint.co.jp

ホームページは
コチラから!

日々の活動を随時更新中!

笹原のぶゆき 検索

